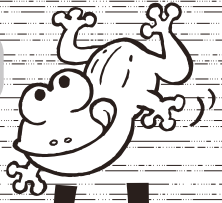


# かじかのさとだより

第30号



発行/〒889-2401 南那珂郡北郷町大字大藤甲3186番地1/TEL0987(55)3738 FAX0987(55)3739  
社会福祉法人 愛泉会 特別養護老人ホーム 河鹿の里



七夕音楽会



七夕ホーム喫茶



七夕劇場



## 七夕祭

五節句の一つ、七夕祭が七月七日に取り行われました。この日を迎える迄に、利用者の皆様と職員とで、短冊に願いを込め、笹飾りを仕上げました。心待ちにされたホーム喫茶では、浴衣に着替えた職員が、利用者の皆様のご注文をお受けし、清涼感のあるデザートを味わって頂きました。お腹を満たして頂いた所で

職員によるミニ劇場です。一年に一度の再会を喜ぶ、一風変わった織姫と彦星の出演にホール全体が、笑いの渦に包まれました。「目指せ百歳!!」のエネルギーに、利用者の方々も満面の笑みと拍手で答えておられました。

次に、ムーミンの衣装を身に着けた職員による演奏を楽しんで頂きました。ハンドベル演奏「七夕」は、その音色に、うっとりとした聴き入っておられる方も多く、アンコールの声援が出た程でした。「七夕」 「我は海の子」 「夏の思い出」の合唱では、昔を懐かしみながら、職員と一緒に歌う利用者の皆様の声が、ホールに響いていました。

伝統的な行事「七夕」を通して、猛暑をも吹き飛ばし、身も心も、和んで頂けた一時ではなかったでしょうか。

天の川、料理にすべて  
ホーム喫茶  
美味、諸芸、立派  
夢みる如  
土屋 ミツヲ 様

※ 写真、名前の掲載はご家族、ご本人の承諾を得ています。

### 感謝の集い オカリナ演奏



オカリナ同好会の皆さんによる演奏がありました。

感謝の集いでのアトラクションの一つとして、お聞きになられた御家族の方もいらつしやると思います。オカリナとピアノの素晴らしい音色が響きわたる、思わずうっとり聞き入るほどでした。演奏曲目は、

「ふるさと」

「津軽海峡冬景色」

「水色のワルツ」

「遠くへ行きたい」

と、馴染みのある曲ばかりで利用者の皆様の穏やかな表情がとても印象的でした。

### ボイスカウト来園

六月一日、ボイスカウトの皆様二十名がボランテイアに来て下さいました。朗読や合唱、紙芝居等に利用者の皆様は、大変喜ばれ、若さあふれるエネルギーを頂き、若返った様に感じました。ありがとうございました。



### 舞踊

先月、小波之詩社中の方々による舞踊のお見舞いがありました。久しぶりの舞踊と言う事で、利用者の皆様はとても楽しんでいらつしやいました。なかでも子供さんの可愛いらしい振りや表情に「可愛い

なあ」と目を細められ、拍手も一段と大きく感じられました。又、代表の河野様始め、皆様より沢山のバナナのプレゼントを頂きました。御心遣いありがとうございました。

### 桜アリーナ見学



デイサービスでは、社会学として今年三月完成しました新町立体育館「さくらアリーナ」を見学してきました。昨年度から、デイサービスの送迎時、車内から工事風景（野球場から、どんどん形になっていく姿）をどんなふうになるのか？何時頃完成するかと、皆様、興味津々のようでした。完成してからも駐

車場がいっぱいの時は「今日は何があるチャロカイ？」「バレーやろう」と話題にのぼっていました。いっぺんじっくりみるかいという事で、六月梅雨の時期ではありましたが見学することが出来ました。利用者の皆様の反応は、「こんな時しか行く機会はないから」といそいそと参加されました。「ワァー大きい」と言う言葉通り、バレーコートだと十面、観覧席三百六十席と広々としていました。玄関には杉の大木、内装のピンクが目につりました。外に出る機会が少ない利用者の皆様に今後このような機会をと考えております。

### 頑張ります。



稲倉 スミエ 様

以前は、歩行器を使用されていましたが、転倒をきっかけに車椅子生活になり、しば

らく訓練をされず、スタッフ一同心配していましたが、最近歩行訓練を再開され、うれしく思っております。スタッフと共に園内やペランダを歩行器で散策され、御家族の事や子供の頃の思い出話に花が咲いています。



本井 ヤエ子 様

毎日、歩行器での歩行訓練に励んでいらつしやいます。「足が痛いよな」の始めの苦笑いも何のその、足の運びはとても良く訓練終了後に足の調子を尋ねると、「痛くないな」と笑い出されます。スナップとの会話は、常に明るい本井さんです。これからも楽しくリハビリを頑張つて下さい。





# 母のまなざし



石井 ヒサオ 様

## 「私の母」

私の母は、若い頃はとても元気でした。田園や畑に行ったりした忙しい毎日でした。その無理が重なって足が悪くなったと思います。足が悪くなる前は、近所の人達と旅行や日帰りで遊びに行ったりして楽しんで居りました。母にとっては、あの頃が一番楽しかったと思います。母がまだ歩けた頃に、主人と私と三人で温泉や道の駅など色々な所に遊びに行ったことが思い出になっています。母は料理が上手でして私が、仕事帰りに寄ると必ずおかずを一品作ってくれました。父が入院して

た時母は、シルバーカーを押して毎日病院に行つて付き添っていました。今でも実家の方に行くと、シルバーカーを押しながら帰ってくる母の姿が、思い出されます。母が、足を骨折して父と同じ病院に入院することになり私が、仕事帰りにその病院に寄っていました。あの時は大変でした。その父も四年前に亡くなりました。母は、退院して家に帰っても家事が出来ないので「河鹿の里」に入所させて頂きありがたく思います。スタッフの皆さんのおかげで体調を崩すこともなく元気でいられるので感謝しています。同じ事を何回も言うと思いますが、宜しく願います。大阪に、妹がおりまして、二十数年まえには、孫の誕生の時には、手伝いにいったこともありました。今は車椅子ですが、また大阪に連れて行ってやりたいです。

永井 満喜枝(娘)

## スタッフより一言

常に、温和な表情の石井様、いろんなクラブ活動に参加され、熱心に取り組んでいらつしゃいますね。特に音楽クラブでの小太鼓のリズム感は最高です。これからも、いろんな事に挑戦して下さいね。



## 母を想う



遠山 フミエ 様

父からの電話で、母の言動の異変を知ったのは七年前だった。短時間の会話等では気付かない程度だったが、次第に、文字が書きにくくなり始め、家事が困難になり、そして唯一の趣味の「詩吟」が覚えられなくなっていた。夫婦二人の毎日は、父にかなりの負担がかかり、新聞やテ

レビで報じる悲しいニュースが頭をよぎるようになった。家族で相談し、平成十五年六月、グループホームに入所する事にした。母は、次第に穏やかな表情を取り戻していったが、入所二年目、転倒し大腿骨骨折、手術を終えた頃から症状が進み、全介護を要するまでになっていった。その頃から私はよく母の夢を見るようになり、その事をM新聞の「随筆」の欄に投稿し、昨年の四月掲載された。それは、『又、母の夢を見た。目が覚めるといつも再生ボタンを押し夢を振り返る私。夢の中の母は、台所に居ていつも忙しそうに働いている。お客さんを迎える準備をしている母は、今の私と同年代でお客様さんは決まって母の兄弟、妹達である。母は十人兄弟の長女で現在八十一歳。今では、その兄弟達の事は勿論、父や私達子供の事、全てを認識できなくなっていました。そんな母を目の前にしても、涙が出る事はなくなりました。だが、夢で見た母の姿を思い浮かべると、目が潤んでくる。もう一度、母の手料理が食べたい。』働き者で、色々な仕事を経験してきたが、五十歳代から、従弟が宮むすーパーで、

主に総菜の担当をしていた。馴染みのお客さんだった方々から、現在の母の状況が信じられないという話を聞いたり、自分の目で確かめないと納得できないからと、わざわざ施設を訪ねて下さった方もいた。有難かった。沢山の方の記憶の中に母が残っている事を知り、嬉しかった。平成十九年十月より、こちらの施設でお世話になり始め、家族の皆が「もっと早く入所していれば良かった。」と同じ想いを口にした。「安心と信頼」が感じられる環境に居られる事を、多くの方々にご心より感謝する次第です。スタッフの皆様、今後どうぞよろしくお願い致します。

田中 豊子(次女)

## スタッフより一言

入所当時は、スタッフの声掛けにも、良く返事をし、頂き、時には私達スタッフを楽しませて下さいましたね。最近では、目を閉じていらつしゃる事が多くてさびしく感じています。いつまでも、お元気で過ごして下さい。



「家族会会長就任挨拶」



黒木 盛明様

盛夏の候 皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。

さて この度河鹿の里家族会の会長をおおせつかりました黒木と申します。皆様もご存知の通り私の姉が、このホームにお世話になつております。この河鹿の里に入所しておられる方は、どなたさまも明治、大正、昭和と、きびしい時代を過ごされた方ばかりだと思ひ、本当に昔を思えば苦しいあの時代から今の時代：色々な事がありました。これからは杉本前会長さんの後、自分も一生懸命、住み良い皆様の暮らし、そして、河鹿の里職員スタッフの皆様と連携をとりながら、楽しいホーム作りをしたいと思ひます。

年間にはクリスマス、誕生会、花見等行事も沢山ありますのでご協力お願いします。

委員会だより

＜厚生環境委員会＞

当委員会では、職員の福利厚生や施設環境整備、家族会の支援を行っております。

利用者の皆様に施設生活を楽しんでいただけるように中庭ベランダに花や野菜を植えています。又職員の腰痛緩和を目的とした、腰痛体操を実施したり、職員旅行等を企画しております。今後も職場環境の充実を図っていけるよう色々な企画を考えていきたいと思ひます。

＜ケア向上委員会＞

当委員会では、主に褥瘡予防対策、感染症予防対策について検討し、実施しています。先日の「褥瘡発症ゼロを目指す。先日の「研修会に参加し、安全で、安楽な体位の管理（ポジショニング）」について学びました。利用者の方がベッドや車いす上で苦痛なく快適に過ごして頂けるよう、指導をうけた事を実施していきたいと考えています。今後満足して頂けるケアが実践できるよう、常に工夫しそして努力を重ねていきたいと考えています。

中堅職員研修に参加して

介護福祉士 植田 千萩

今回宮崎市での二日間の中堅職員研修に参加させて頂きました。

初日は『高齢者福祉の動向』『権利擁護』『職場におけるコミュニケーション基本』等の講義を受け、二日目は初日の講義をもとに演習を行いました。施設内では、学ぶことができない他施設職員との意見・情報交換と充実した二日間となりました。

職場におけるコミュニケーションについては、組織の中で自立的な役割行動を行うための意識づけとして、言葉の限界を知り、報連相を充分に行うことの大切さ。そのためには話し方、聞き方の基本を身につけること等を学びました。

私は、今回研修で学んだ事を今後に生かし、中堅職員として自覚と誇りを持ち、利用者の方々によりよいサービスが提供できます様、業務に励んでいきたいと思ひます。

九州老人福祉施設職員研究大会へ参加して

相談員 石垣 きぬ子

七月十七日〜十八日、熊本県に於て、九つの研究部会に二千名の参加者が集い、活発に研究討議が行われました。そこで、「通所介護事業所におけるニーズに応じたサービスのあり方」と題して、選択的サービスの取り組みを事例発表させて頂きました。

事業所がこれまで培ってきた信頼や努力、利用者様御自身の自己実現の達成を支える各事業所との連携等の中で「どうなりたいのか」「どうありたいのか」と言う事を明確に設定し、結果として満足度の高いサービスが行えたかを評価し、次のステップへ移行する事が大事だと思ひます。

在宅生活支援は、通所利用時だけではなく、自宅でも継続して行っている運動や趣味を活かした活動等個別サービスが重要だと思ひます。そこに集まれる方々に求められる人として成長しなければと改めて学ぶ事ができました。

アロハシャツを着て

河鹿の里では、七・八月の毎週水曜日は、アロハシャツ着用の日と決め、利用者の皆様方にアロハシャツを着て、夏気分を味わって頂いています。御家族の皆様も夏気分の河鹿の里へお越し下さい。お待ちしています。



御礼

七月十三日、家族会による奉仕作業が行われました。二十四家族、二十七名の家族の皆様が参加して下さいました。御陰で施設内外がとてきれいなになりました。ありがとうございました。

編集後記

暑さが厳しい時期となりました。室内でも熱中症になる可能性があると聴きますので皆様体調には十分気を付けてお過ごし下さい。

